

英 語 科 授 業 案

日 時	平成 26 年 10 月 14 日(火) 13:40 ~ 14:30
生 徒	1 年 A 組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名
授 業 場	1 年 A 組 教室
授 業 者	吉 岡 康 一 朗

1 単元名 *Sunshine English Course 1 Program 6 ユキのイギリス旅行*

2 単元について

(1) 単元観・研究開発との関連

近年、知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化し、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。そのために他者との関わりの中で知識や情報を交換し、共有しながら、自らの意思や考えなどを発信していくことのできるコミュニケーション能力の育成が求められている。

学習指導要領においては、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力を育成すること、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能をバランスよく指導することの重要性が示されている。また、昨年12月には、文部科学省より「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が発表され、中学校英語科の目標・内容の高度化が求められている。

本校英語科では、「スパイラルタイム」の中で、小学校外国語活動との効果的な連携を図り、指導にあたってきた。さらに、今年度より附属釧路小学校において小学校英語科が新設され、小学校1年生から英語教育が実施されるようになり、小中9年間の一貫した指導について研究を進めているところである。

本単元Program6では、主人公ユキがイギリスにホームステイし、友人のジュディとマットとともにシャーロック・ホームズミュージアムに出かけ、その中で友人のマットがシャーロック・ホームズについて説明する場面が扱われている。その場면을学習することを通して、聞くこととしては、「(歴史上の)人物などについて話されている内容を聞いて、全体の内容を適切に聞き取ることができる」、読むこととしては、「(歴史上の)人物などについて書かれた文章を読んで、全体の概要を適切に理解することができる」、話すこととしては、「自分や身近な人物などを紹介する場面で、簡単な英語で説明したり、感想を述べたりすることができる」、書くこととしては、「(歴史上の)人物などについて、簡単な英語でレポートを書くことができる」を身につけさせたいと考える。(現在進めているCan-doリストによる)

単元のまとめとして、外国語活動(Hi, friends2)の中で扱われた「桃太郎」について、その内容を理解し、物語の登場人物について説明する活動を行う。教材や学習内容を小学校と共通化することで、生徒は小学校の学習内容を想起しながらスパイラルに学習に取り組むことができ、英語学習へのモチベーションを高めることができる。さらに、ストーリーリテリングという小学校時代にはなかった学習を行うことで、生徒は目的意識をもって学習活動に参加するとともに、一段深まった表現内容に自分の学びの深まりを実感するだろう。特に、自分の考えを表現したり、相手の考えを受け入れたりしながら、相手とのつながりを意識して活動させたい。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

平成23年度より完全実施となった小学校外国語活動を踏まえ、本校では研究開発学校として附属釧路小学校との小中連携を「豊かなコミュニケーション能力を養うこと」をテーマとして、現在スパイラルタイムを取り入れながら研究を進めている。その連携の中では、次の2つの視点を重視して実践を行ってきた。1つ目の視点は「自ら伝えたいという思いを活かした学習課題の設定」である。これは小学校外国語活動（英語科）で学習した表現を活かしつつ、ゲーム的要素も取り入れながら自らの思いを伝えるという、意味や内容を含んだコミュニケーション活動となるように課題の設定を工夫することである。2つ目の視点は「方略的能力の育成」である。特に小学校段階では、現在学習指導要領に示された外国語活動の目標が「コミュニケーション能力の素地を養うこと」であることから、音声を中心とした慣れ親しみを重視した活動が展開されており、少ない語彙を補いながら、言葉だけでなく、表情やジェスチャーなどを効果的に活用し、コミュニケーションを円滑に進める能力、つまり方略的能力の育成が重要だと考える。

これら視点を踏まえ、本単元 Program6 では、三人称単数のある人物について表現する活動において、友人や家族のことを扱うだけでなく、物語の登場人物（内容）を相手に説明するという文脈の中で、既習事項を活用しながら、粘り強く相手に伝えようとする方略的能力を培えるよう工夫したい。

3 単元の目標

三人称単数現在形を理解して、ある人物や物について簡単に説明したり、尋ねたりすることができるようにする。また、短い物語や会話を聞いて登場人物のすることやしないことについて絵を見ながら説明したり、その人物に対する自分の思いや考えを表現したりすることができるようにする。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
ア. 物語の登場人物についての情報もとに積極的にその人物について説明しようとしている。	ア. 物語の登場人物について説明したり、尋ねたりすることができる。	ア. 物語の登場人物について説明されたことを正しく聞き取ったり、読み取ったりすることができる。	ア. 三単現の文（肯定文・疑問文・否定文）の構造と用法について知っている。

5 単元計画 (全8時間)

時	学習事項	主な学習活動	評価規準			
			関	表	理	知
1	Program6 §1 三単現のs	<ul style="list-style-type: none"> 三単現のsを用いた肯定文(友達を紹介しよう) §1 新出語彙・本文内容理解・音読練習 本文のリテリング 			ア	ア
2			ア	ア		
3	Program6 §2 三単現の疑問文	<ul style="list-style-type: none"> 三単現の疑問文とその答え方(友達について尋ねてみよう) §2 新出語彙・本文内容理解・音読練習 本文のリテリング 			ア	ア
4			ア	ア		
5	Program6 §3 三単現の否定文	<ul style="list-style-type: none"> 三単現の否定文(友達のしないことを言ってみよう) §3 新出語彙・本文内容理解・音読練習 本文のリテリング 			ア	ア
6			ア	ア		
7	Program6 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 桃太郎の話を読み、ある場面の絵を見ながら、説明することを書く。 本文以外の物語(桃太郎)のある場面について絵を見せながら、その絵の登場人物について説明し、自分の考えを述べる。 			ア	ア
8本時			ア	ア		

6 本時案

(1) 本時の目標

絵を見せながら相手に物語（桃太郎）に登場する人物や場面について説明することができる。

(2) 本時の展開（8 / 8 時間）

（○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明）

学習活動（下位目標）	教師の働きかけ	【評価方法】備考
1. 本時の課題を確認する。	□これまで学習したことを活用して桃太郎の物語の登場人物や場面について説明しよう。	※①～⑨のジグソー班の座席で開始 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【小学校とのつながり】 Hi, friends 2 Lesson7 We are good friends. </div>
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>各班で考えた場面の説明をつないで、みんなで桃太郎のストーリーを完成させよう ～ある登場人物や場面について絵を見せながら説明しよう～</p> </div>		
2. 前時に考えた原稿をもとに場面の説明を班内で発表することができる。 3. 自分の説明内容に自分の思いや考えをすることができる。	□前時に考えた情報をジグソー班の中で発表しよう。 △説明内容に自分の思いや考えを加えることはできないだろうか。 □自分ならではの視点を説明に取り入れよう。	【発表】 ※ジグソー班で情報を共有する 【観察】 【ワークシート】 ※協働学習 <div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【小中連携の視点】 方略的能力を活用する場面の設定 </div>
4. 9人グループに分かれて各自の場面(①～⑨の場面)について、発表することができる。	□9人一組のグループで集まり、①から⑨までの場面を一人ずつ発表しよう。 □聞き手を意識して相手に伝わるように発表しよう。	【発表】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 期待する行動傾向 既習事項を活用しながら、説明に自分の気持ちなどを入れて伝えようとしている </div>
5. 自己評価用紙に学習の振り返りと感想を書くことができる。	□単元を通して学んだことを振り返り、自己評価用紙を記入しよう。	【自己評価用紙】 ・回収